QScan 2021.3.0 リリースノート

新機能

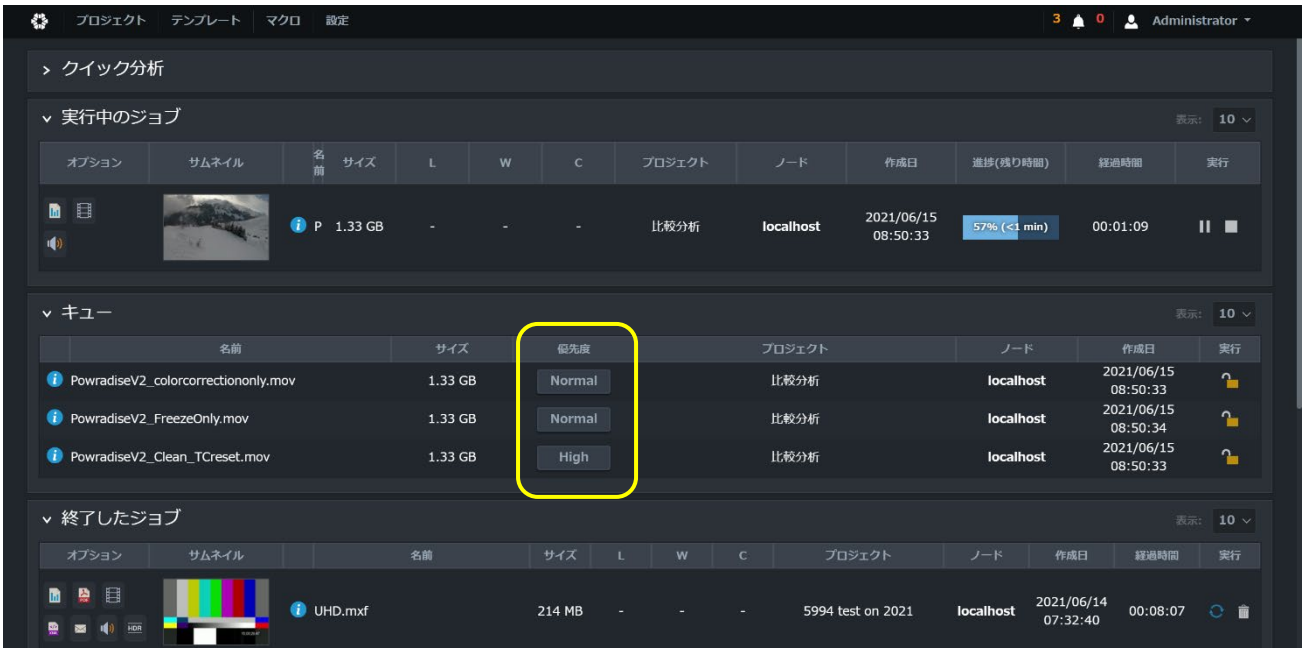
バージョン 3.8 から 2021.3 の間で追加された新機能は以下の通りです。

ユーザーインターフェースの更新

バージョン 2021 より、UI のデザインが刷新されました。

タスクリストがメインページに統合

「タスクリスト」という独立したメニューがなくなり、ファイル分析の優先順の変更がメインページ上で行えるようになりました。

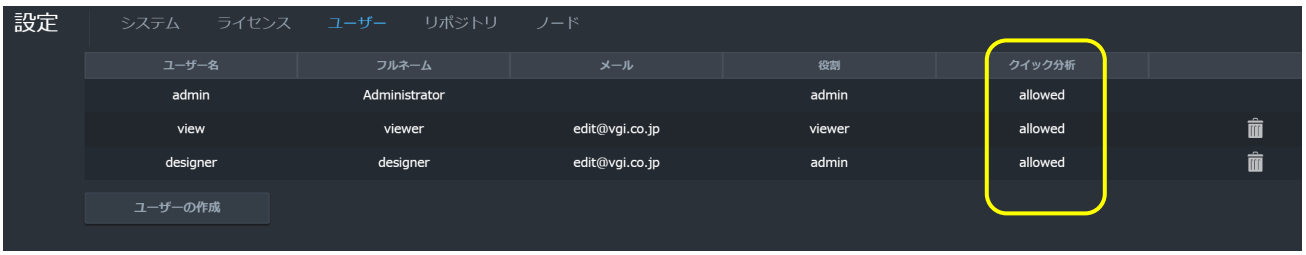


クイック分析が独立したユーザー権限に

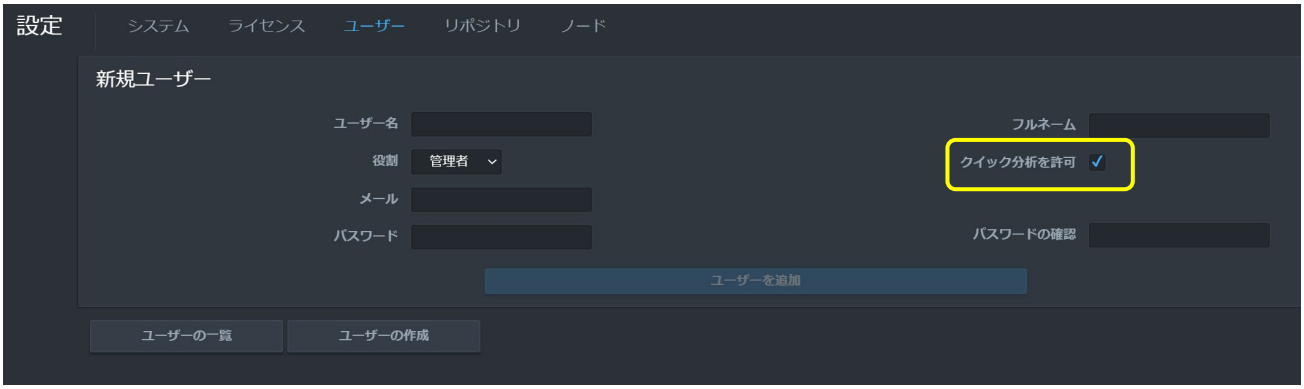
クイック分析を実行する権限を、各ユーザーに個別に割り当てることが可能になりました。

ユーザーの役割（管理者、デザイナー、閲覧者）に関わらず、個別に許可することができます。

設定 ＞ ユーザー 画面でクイック分析の権限の有無が表示されます。

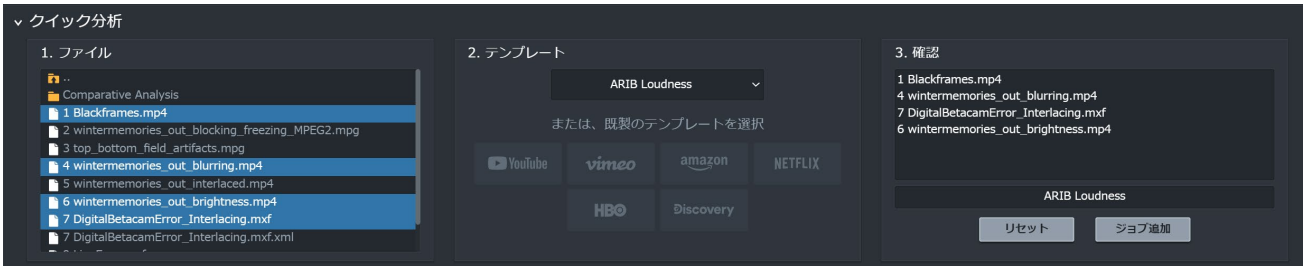


新規ユーザーの作成時には「クイック分析を許可」のオプションが表示されます。



クイック分析で複数ファイルの選択が可能に

複数ファイルを一括選択してクイック分析を実行できるようになりました。左のファイルリストからクリックして選択します。



MXF マルチパートファイルのレポート設定

分析の一般設定に「MXF セグメントを使用」が追加されています。チェックを有効にすると、マルチパートファイル内のセグメントのブランク間で発生するイベントはレポートされません。

HDR の分析項目（QScan Max）

分析項目のカテゴリに「HDR チェック」が追加され、以下の機能が利用できます。

- MaxFALL
- MaxCLL
- Gamut Check

- Mastering Display Color Primaries
- Mastering Display Luminance

※上記の分析項目は、QScan Max ライセンスで使用可能です。

なお、「HDR チェック」に含まれる分析項目のうち、以下の項目は QScan One および Pro のバージョン 3.8 にすでに搭載されており、バージョン 2021 へのアップデート以降も継続して利用いただけます。

- Dolby Vision
- Format
- Header Max Light Level

また、HDR 分析に関連して一般設定に以下の項目が追加されています。

- HDR MaxFALL/MaxCLL ： 分析に RGB または Y のどちらを使用するか選択
- HDR レンジ ： 分析にリーガルレンジ、フルレンジのどちらを使用するか選択

HDR チェックでは、以下のアイコンから HDR レポートをダウンロードできます。

配信向けのデフォルトテンプレート

YouTube や Amazon など、配信向けのテンプレートがデフォルトで用意されています。

テンプレートはクイック分析で使用したり、プロジェクトにロードして使用することができます。

クイック分析

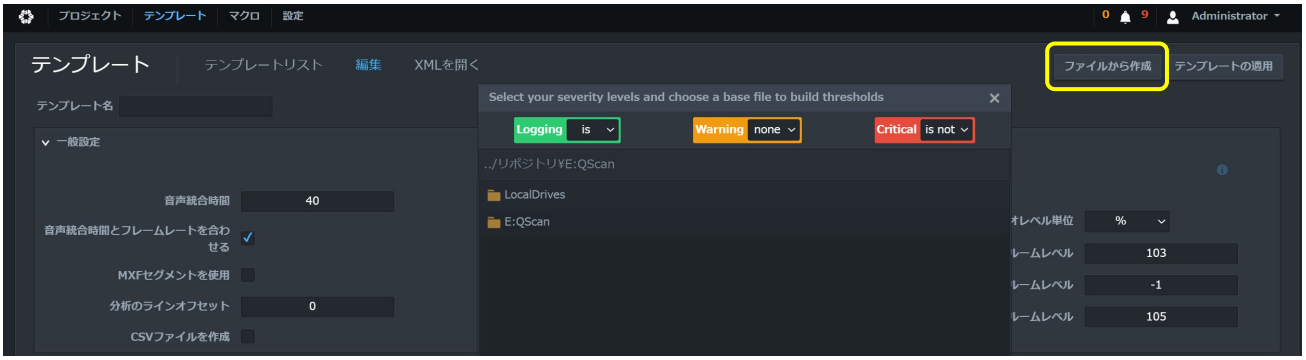
新規プロジェクト

これらのテンプレートで使用されるマクロもデフォルトで搭載されています。

※　デフォルトのマクロは誤って削除しないようにご注意ください。テンプレートを使った分析が適切に行われない可能性があります。誤ってマクロを削除した場合は、テンプレートメニューの「デフォルトのテンプレートを復元する」ボタンを押すことで、マクロを含めたテンプレートが復元されます。

テンプレートの自動作成

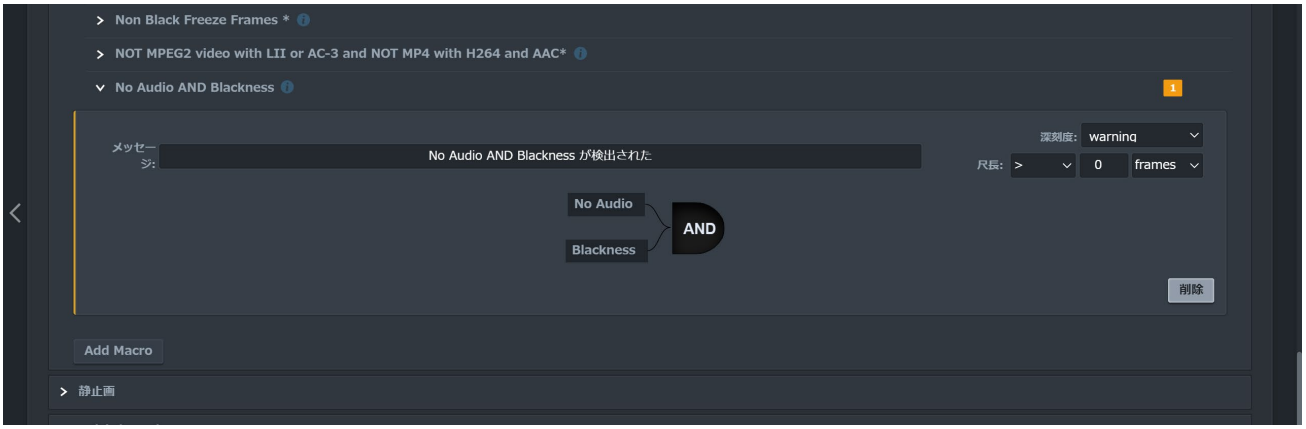
テンプレートの作成において、フォーマットチェックの閾値をファイルに基づいて自動的に作成できるようになりました。テンプレートの編集画面で「ファイルから作成」を選択し、Logging/Warning/Critical の条件を設定します。基準にするファイルを選択すると、フォーマットチェックの閾値が自動的に追加されます。



マクロ編集画面でしきい値の設定が可能に

マクロの編集画面で、分析項目をクリックするとしきい値設定が行えます。設定を変更したら「Update」ボタンを押します。

プロジェクト設定でも、マクロの追加後にしきい値の設定が可能です。プロジェクト内で行った変更は現在のプロジェクトに対して適用されるもので、マクロには保存されません。



分析結果を CSV ファイルとしてダウンロード（QScan Pro/Max）

ファイル分析のパラメータ値を、CSV ファイルとしてダウンロードすることができます。
以下の 2 通りの方法があります。

- プロジェクト設定の一般設定で「CSV ファイルを作成」をオンにして分析する

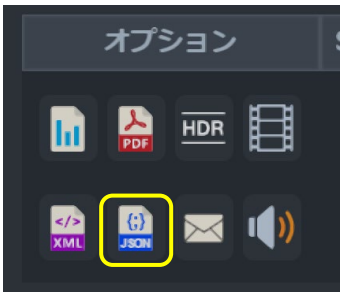
分析後に CSV アイコンが表示されます。これを押すとプロジェクトで分析されたすべてのパラメータを含む CSV ファイルがダウンロードされます。

- ビデオの詳細ページで選択した項目の CSV ファイルを取得する

分析項目をクリックして選択すると、CSV ファイルのダウンロードアイコンが表示されます。選択した項目のパラメータを含む CSV ファイルをダウンロードできます。

JSON 形式のレポートのダウンロード

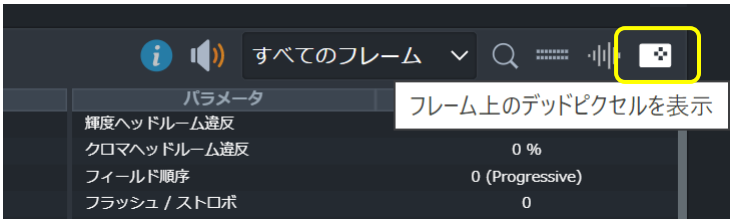
サードパーティー製システムとの統合のために、JSON 形式のレポート生成に対応しました。

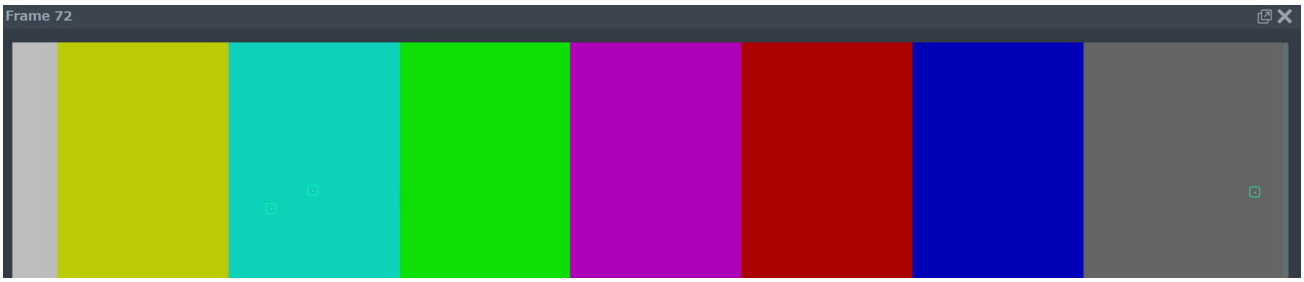


デッドピクセルのマーカー表示

以前のバージョンにおいても、検出されたデッドピクセルをマーカーで表示する機能はありましたが、以下の点が改善されました。

- ビデオの詳細ページでデッドピクセルのマーカー表示のオン・オフが可能に





- 事前にしきい値を設定していない場合も、マーカーの表示が可能に

以前のバージョンではファイル分析前にしきい値を設定していないとマーカーは表示されませんでした

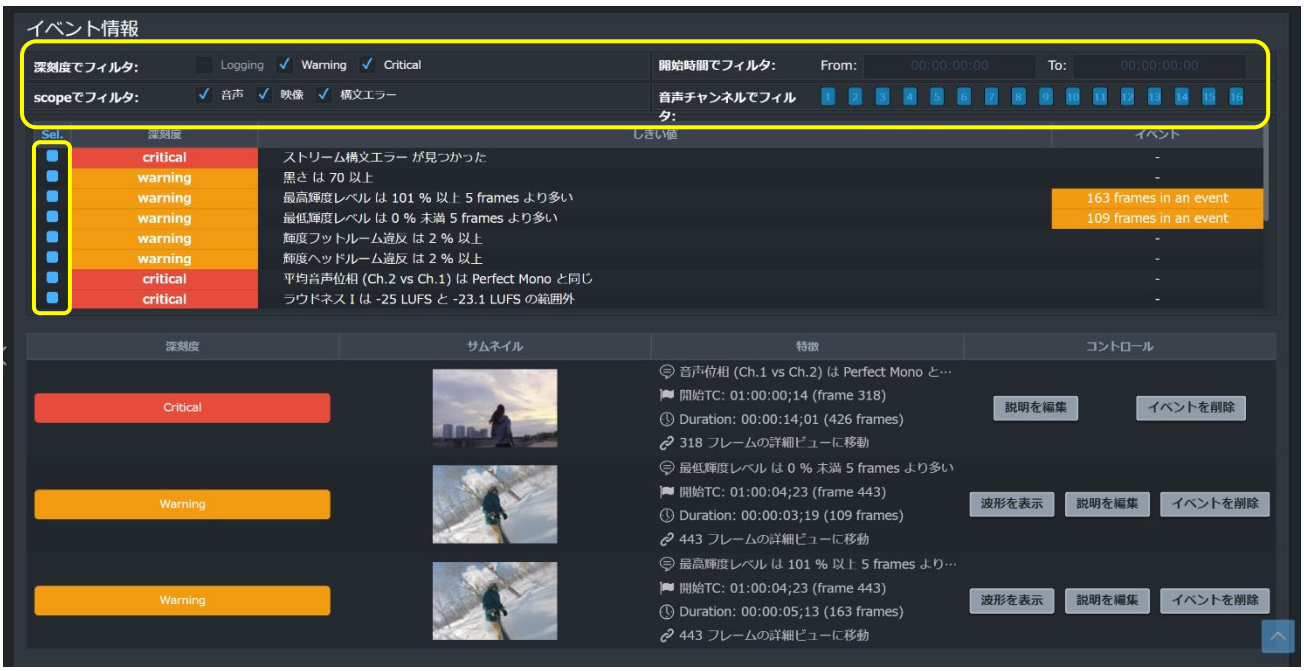
タイムラインビューでのイベント削除

ビデオ/オーディオ詳細ページで、イベントを削除する機能が追加されました。

HTML レポートの表示

HTML レポートで、イベントのフィルタ表示が追加されました。フィルタを設定し、確認したい目的のイベントのみを表示できます。

- 閾値の項目
- 深刻度（Logging、Warning、Critical）
- 種類（音声、映像、構文エラー）
- 指定した開始時間から終了時間までの範囲
- 音声チャンネル



また、レポートから削除したイベントの表示と、削除したイベントの復元も追加されています。

しきい値の尺長設定

しきい値の尺長設定に、新たに以下の 3 つが追加されています。

- between
- out of
- is not

PDF/HTML レポートの変更：分析のしきい値リストの表示

ファイル分析レポートの「分析のしきい値」リストに、フォーマットチェックのカテゴリに属するしきい値が表示されなくなりました。フォーマットチェックのしきい値は、イベントが発生した場合、レポート中のプログラム、ビデオストリーム、オーディオストリームの該当する項目内に表示され、「分析のしきい値」の一覧には表示されません。

WARNINGを含んだ合格

ファイル情報

コンテナ	ファイルサイズ	フォーマットプロファイル	フォーマットバージョン	タイムコード			
mxf	175 MB (183964756 B)	OP-1a	1.2	00:59:50;00	2	0	0
Logging		名称 は XDCAM HD422 と同じ					
Logging		開始TC は 00:59:50;00 と同じ					

プログラム 1

ステータス			
分析済み	0	0	0

ストリーム 1

コーデック名	尺長	解像度	フレームレート	ビットレート	表示アスペクト比	符号化アスペクト比	ピクセル形式			
MPEG-2 video	00:00:28	1920x1080	(29.97:1)	50000000	16:9(1.78:1)	1:1(1.00:1)	yuv422p	1	0	0
Logging		フレームレート は 29.97 fps と同じ								
Ch. 0		0(0)			2(272)		0(0)			

ストリーム 2

コーデック名	尺長	チャンネル	サンプルレート	ビットレート			
PCM signed 24-bit little-endian	00:00:28	1	48000	1152000	0	0	0

バグフィックスおよび改善点

- デッドピクセル検出のしきい値を適用すると、サムネイル画像が生成されシステムドライブの容量を占める問題：デッドピクセルの座標が Log に記載されるよう仕様変更され、分析時にサムネイルが生成されない
- 分析対象ファイルのローディングに関する問題
- DPX 連番ファイルのサイズが 0KB として表示される問題
- デザイナー権限でクイック分析が実行できない問題
- MXF チェック項目のしきい値がマクロ内で機能しない問題
- 59.94fps ファイルで部分分析が正しく実行されない問題
- システムイベントの日時にタイムゾーン設定が反映されるように改善
- 無音のしきい値に対して、メッセージの変更が反映されない問題
- 特殊なフレームレートフラグ（29970/1000）をもつファイルの分析に対応
- 分析のしきい値のデフォルト値を調整
- PDF レポートでイベントが欠落する問題
- 16 以上の音声チャンネルを持つファイルの問題を修正：分析エラーは発生しないが、音声の最初の 16 チャンネルのみが分析対象となる
- 分析のしきい値において輝度・クロマレベルの%指定に小数点第一位まで入力可能に（例：0.5%）
- コンスタントカラーフレームの精度に関する変更
- デフォルトのテンプレートを削除できないように変更

既知の問題

- 部分分析において音声分析項目のイベント TC およびサムネイルが正しくない（HTML/PDF レポート・オーディオの詳細ページ）
- 部分分析を行ったファイルのビデオ/オーディオ詳細ページにおいて、TC 指定で目的のフレームへ移動できない
- 「最高輝度レベル」および「最低輝度レベル」に閾値の区間設定を追加するとイベントが発生しない
- デッドピクセルのイベントが表示されないことがある
- ビデオの詳細ページでデッドピクセルマーカーが表示されないことがある（「すべてのイベント」から「すべてのフレーム」表示に切り替えることで表示される）
- HTML レポートにおいて、音声イベントのデュレーションが適切に表示されないことがある
- ノンドロップフレームタイムコードのファイルでイベント TC に数フレームオフセットが生じる
- HDR チェック「Gamut Check」のイベントがプロジェクトおよび PDF レポートで表示されない
- ヘッダーフォーマットチェック「タイムコード有無」のイベントが表示されない

- 分析後にしきい値の区間設定を変更した場合、しきい値の変更と認識されずレポートの更新が有効にならない
- テンプレートを結合で適用後、ラウドネス分析オフセットの値がデフォルトに戻る
- プロジェクトの名前を付けずに「プロジェクトの保存」ボタンを押してもアラートが表示されない
- 比較分析の詳細ページで、各ファイルのフレーム番号がインターフェース内に収まらない
- 日本語の言語設定において PDF レポートのファイルサイズが肥大化する
- リポジトリ内に新規フォルダを作成する機能が失われている
- ログイン中のユーザーの権限の種類を確認する機能が失われている
- 分析後の CSV ファイルのダウンロードアイコンを押してもダウンロードが開始しない：ページの更新を行うとダウンロードが可能に
- 分析速度：バージョン 3.8 と比較すると UHD ファイルで分析時間が長くなる傾向：将来のリリースで改善予定